

やどかりの里発！地域発見マガジン

大宮見沼

よみさんぽ

第2号

特集

地域の輪・わ・和



大ぶ小ぶ味や形は
異なるもひとつぶ
ひとつぶがもちつもたれつ
一所懸命成長しながら
自然に大きな総となる
出合ったとき至福にひたる
ありがとう

特集 地域の

やどかりの里は、1970年に精神科病院の入院患者に住まいと仕事を用意することから出発し、現在では330人余りの障害のある人の働くこと・暮らすことを支えています。そのやどかりの里を支えてくださっているのが地域の皆さんです。皆さんの支えをもっとも実感するのが年に1回のバザーです。バザーの売



輪・わ・和 ●●●●●

上げは働く場や住まいづくりに活用してきました。そして、資金獲得にとどまらず、バザーを通したつながりはやどかりの里の大きな財産となっています。今号はやどかりの里のバザーにご協力いただいている地域の団体の皆さまをご紹介します。地元の身近なつながりがさらに広がっていくことを願っています。



多くの方にご協力いただいています

やどかりの里大バザー 応援団の皆さん（敬称略・順不同）

イサオクリニック
埼玉県立精神医療センター
大宮見沼ライオンズクラス
岩槻区保健センター
見沼区保健センター
配食サービスひまわり
埼玉県精神保健福祉協会
中央区障害者生活支援センター
緑区障害者生活支援センター
浦和区障害者生活支援センター
浦和区保健センター
埼玉県クリーニング生活衛生
同業組合大宮支部
浦和神経サナトリウム
大宮南東ロータリークラス
鴻沼福祉会

あざみ共同作業所
きりしき共同作業所
そめや共同作業所
江原梨園
つくしんぼの会
お菓子工房
大宮開成高等学校
浦和学院高等学校
上尾市医師会上尾看護専門学校
聖学院大学
精神保健福祉ボランティア
グループ
JR 東日本労働組合
大宮南ロータリークラス
大宮中央ロータリークラス
埼玉新聞社

染谷自治会
見沼区報
ショッパー大宮版
中川自治会
染谷幼稚園
大宮厚生病院
済生会鴻巣病院
大砂土東公民館
東洋ランドリー
阿部金物店
リカー
ななくさ・大谷事業所
山崎工務店
小槌会

などなど



何年、やどかりの里大バザーには、個人ボランティアの皆さんも含め、100名超の方が協力して下さってます。

今年は10月7日(日)中川ふれあい広場に開催予定。お楽しみに〜♥



自分たちの仕事を 生かした交流を

輪

わ

大橋 令子さん（大宮南東ロータリークラブ会長）

大宮南東ロータリークラブは、さいたま市エリアの事業経営者及び専門職業人（現在会員13名）の集まりで、地域や住民に対する社会奉仕が目的で20年の歴史があります。やどかりの里への支援を社会奉仕活動の柱として掲げてくださっており、やどかりの里のバザーでは、JA などから直接仕入れた野菜の販売を行い、毎年大好評です。バザーに参加し、直接会員が販売することが大事だと考えてくださっています。

22代目の今期会長の大橋さんは編集、出版、商品企画などの仕事に従事されています。会員の皆さんはバザーでの協力にとどまらず、自分たちの仕事を生かした協力や交流ができないかと考えてくださっているそうです。バザーをきっかけに支援の輪が広がることはとてもうれしいことです。

国際交流と社会福祉支援の両輪で

町田 侃さん 宮崎 和志さん 小菅くるみさん 柴田 南帆さん
（大宮開成高校インターアクト部）

部員30名を抱えるインターアクト部は、韓国との間で24年間の相互交流実績を持つ国際交流分野と、社会福祉団体を支援する分野を両輪に活動中です。東日本大震災時には街頭で多額の募金を集めました。その際に募金してくださる方々の暖かい励ましに、何よりも自分たちが勇気づけられたと部員の宮崎さん、小菅さん、柴田さんが語ってくださいました。長年にわたってこの部活動を支えているのは、部顧問の町田侃先生。埼玉県ではリーダー的な存在です。「やど



かりの里のバザーへの支援を始め、学校では体験できない活動を通じて地域社会への貢献ができることに、限らない面白さと喜びを感じています」と。卒業後の進路も、自ずと社会福祉系を選ぶ生徒が多いとのことでした。



特集 地域の輪・わ・和

資源や人をつなげる ネットワークづくり

小澤クニ江さん 市川 和美さん

(旧大宮市精神保健福祉ボランティア養成講座受講者)

やどかりの里には多くのボランティアの皆さんが関わってくださっています。今回お話を伺ったのは、やどかりの里が小規模作業所を立ち上げた約20年前、物件探しからご協力いただいていた方々です。継続的・定期的にやどかりの里の活動に関わってくださいました。現在は、一施設へのボランティアではなく、高齢者施設の運営委員や地域の小学生の登校時の見守りなど、地域に根差した活動を行っています。また、地域で必要とされる資源や人をつなげるボランティアのネットワークづくりにも力を尽くしています。ボランティアグループは数多いですが、小澤さんのマネジメントのもと、県内グループを越えて仲間が実働を担い、地域の応援団として、活動中です。

1日楽しんで協力して

武田 義治さん

(埼玉県クリーニング生活衛生同業組合大宮支部 支部長)

クリーニング組合大宮支部、その前身は全国洗染商業協同組合で、1957(昭和32)年に設立されました。県内でも地道な社会福祉活動に定評のある大宮支部は、年に1回老人ホームの毛布洗いを行っています。150枚近い毛布を各組合員で分担しています。40年以上続くこの活動で、過去には埼玉県「シラコバト賞」も受賞。やどかりの里のバザーでも、40年近く品物の提供やボランティア協力をいただいています。「バザーには、1日楽しんで協力できれば、という思いでみんな参加しています。同じ地域で活動してるんだから、できる限りお手伝いしたい。そうでないと寂しいじゃないですか」と武田さん。40年あまりのおつき合い、次世代の組合員の方が参加してくださるのもうれしいつながりです。



35年の社会貢献の重み

佐藤 誠さん（大宮南ロータリークラブ会長）

大宮南ロータリークラブは、大宮駅南側地区の中小企業経営者の集まりで、地域や住民に対する社会貢献を目的としていて、35年の歴史を持っています。

やどかりの里のバザーには、毎年物品提供やボランティアとして協力していただいています。佐藤さんは見沼区でさとうトーヨー住器株式会社を経営し、今期新しく大宮南ロータリークラブ会長に就任された若きオーナーです。佐藤さんは地域密着の事業経営をしつつ、地域の障害者福祉や青少年育成にも関心をもち、さいたま市民会議青少年育成片柳地区の会長として、社会貢献活動もされています。やどかりの里としては、バザーを通して出会った地域の理解ある方々と地域の中で、日々の活動の中でつながっていくことを目指していききたいものです。



We Serve を合言葉に！

松沢 英夫さん 堀江 渉さん 斉藤三城勇さん

小林 誠治さん 山田 清志さん（大宮見沼ライオンズクラブ）

1978（昭和53）年に誕生した大宮見沼ライオンズクラブには、さまざまな職種の方が集っています。取材にお邪魔したこの日は、松沢英夫会長をはじめ、前期と今期の役員の皆様が集まってくださいました。「社会に恩返しをしたい」という創設者の理念のもと、“We Serve”「みんなで奉仕する」が合言葉です。昨年の3.11大震災の時には、さいたまスーパーアリーナでの支援活動や街頭募金など、仲間が力を合わせ実現できる“We Serve”を実感したと語っていただきました。毎年春と秋に献血活動を続け、やどかりの里へも長年のご協力をいただいております。地元にも密着し、一方海外にも活動の場を広げ、継続した奉仕活動を通じて、仲間のつながりが強まっていく、そんな力強さが魅力です。



やどかりの里 の 仲間たち 1

楽しい絆のあるところ

辰村泰治さん (75歳)

22年間入院していた精神科病院を退院する時に、やどかりの里と出会いました。やどかりの里に来て13年。信頼できるスタッフに支えられながらひとり暮らしを続けています。

この13年間は楽しい思い出がいっぱい。ずっとエンジュ（本誌10P-13P 参照）で働いていますが、怪我で休んでいる時に、毎日家まで傷口の消毒に生活支援センターのスタッフが来てくれ、誕生日にはエンジュからカードが届きました。心配してくれる人がいることがほんとうにうれしかったです。私は各地で自分の体験を話していますが、自分を語る機会があることもありがたいです。障害があっても社会に貢献ができるし、悲観しなくていいと思えるからです。病気になっていろいろなことがありましたが、今の幸せになるためのプロセスだったのだと思います。悪くない人生です。やどかりの里を一言で言うなら、楽しい絆のある所ですね。

仕事を任されやりがいが……

M.K さん (30代)

ひとり暮らしの準備のためにやどかりの里援護寮（ある期間入寮する施設）を利用し、今はエンジュで働きながらグループホームでひとり暮らしを実現しています。

援護寮が初めて利用した福祉資源です。援護寮に入所後1年程たってエンジュで働き始めました。何もしないでいると、いろいろと考え込んでしまうので、日中働いているのは自分にとって大切なことなのです。始めは不慣れで、昼食を援護寮の自室で食べたり、時々休んだり、イヤになったこともありましたが、今は慣れてきて、勤務時間も長くなり、車の配達ナビ役もやっています。時間に追われる現場ですが、病気に対する配慮があり、無理をしなくて済んでいます。任される仕事が増え、やりがいを感じています。更に食数を増やして、もっと一般の人に食べてもらえるようになるといいですね。（インタビュー・堤 若菜）

よみさんぽ日誌

本誌記者がこの地で出会った人や活動を綴ります。今号は、サイサン環境保全基金のご紹介と見沼ファーム21のジャガイモ収穫体験記です。

さいたまの自然を守る 「公益財団法人 サイサン環境保全基金」

サイサン環境保全基金（代表理事川本宜彦、株式会社サイサン会長）は「Gas One」の愛称でおなじみのLPガスの（株）サイサンの資金支援により、埼玉県内の市民環境保全団体を助成している。1998（平成10）年から今年で15年、一団体を最大で10年にわたり継続支援することもできるシステムで、その支援総額は累計2億円を越えている。企業の社会貢献といえはほとんどが大企業によるもので、企業のイメージアップ戦略や営業戦略に使われることも多いが、サイサン環境保全基金は「経済、企業の発展だけでなく、環境保全活動に積極的関与をしよう」という（株）サイサンの企業理念をもとに創設されている。

大宮のサイサン本社KSビル内にある財団事務所に伺うと、事務局長の中畝義明さんが活動成果を丁寧に説明してくださった。見沼田んぼの保全活動にも多くの資金提供をされている。この基金の素晴らしいところは「環境保全活動をする市民」を根気よくバックアップするという点にある。自分の生活する地域の環境を守ろうと立ち上がった市民活動をサポートすることで、環境と市民活動を通じた人のつながりを支援することに成功している。地域で汚れたどぶ川を何年もかけて清流にした市民グループや、地域の名水を守ろうとする市民たちなど、それぞれの人々のささやかな思いを自立させ、ある社会変革（環境保全）として結実させることで、市民社会の熟成という大きなテーマを支援していることが素晴らしい。

（記・野田妙子）

インフォメーション

助成には普通助成（年間の事業計画に基づく事業に対する助成。毎年8月15日と2月15日が助成申請締切）と簡易助成（緊急に活動する必要性が生じた時の助成）があります。詳しくは下記まで。公益財団法人 サイサン環境保全基金

〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-11-5 KSビル4階

TEL 048-643-1192 FAX 048-643-1284 <http://www.h2.dion.ne.jp/~saisanec/>

見沼ファーム 21 ジャガイモ収穫体験記

6月23日(土)、見沼田んぼを守る活動を行う見沼ファーム 21(本誌創刊号に紹介)の皆さんにお誘いいただき、ジャガイモの収穫に参加してきました。

梅雨真っ只中、雨天のため何度か延期になりましたが、当日はやっと曇り空。やどかりの里から子どもを含む計8名が参加しました。

見沼ファーム 21の皆さんのご指南のもと、土から顔を覗かしているジャガイモたちを掘り出しました。大きいものから小さいものまで、出るわ出るわ……。宝探しのようなワクワク感。ついでに、大根も抜かせていただき、収穫後は畑の草取りのお手伝い。いい汗をかきました。収穫したジャガイモは、見沼ファーム 21の皆さんの手によって、美味しいカレーに大変身!採りたてのジャガイモはホクホクで、とっても美味しかったですよ。

ところで皆さん、ご存知ですか、ジャガイモの実を。私たちが食すジャガイモは地下茎で、実というのは花が咲いた後に生るものを指すのだそうですよ。まるでミニトマトのような実でした。子どもたちが畑で暮らす蛙やバッタ、カタツムリに夢中になっている傍で、私もジャガイモの実との初めての出会いに感動。

都会の喧騒から離れ、無心に土や草とまみれる時間は、何とも清々しく、心地よい時間でした。

小さな生き物たちに目をキラキラさせる子どもたちの笑顔もまた、輝いていました。そんな素敵な時間を提供してくださった見沼ファーム 21の皆様には、感謝の気持ちでいっぱいです。

自然とのふれあいから感じる癒しのひととき、皆さんも味わってみてはいかがでしょうか。

(記・宗野 文)



あなたの街のやどかりさん

宅配弁当屋エンジュ

街の中の障害者施設に願いを込めて
設計士の視線から

都祭俊一郎（株式会社 都祭建築設計事務所）

エンジュの設計と工事監理を終えて

とある冬の日、エンジュの責任者の方たちとお会いしました。冬至に近いこの時期の日差しは短く、打合せ時刻に伺った時には、日もとっぷりと暮れていました。施設の利用者さんが帰った後の静まり返った中川の施設での打合せでしたが、エンジュの皆さんがまとめた要望の数々に、新しい施設への熱意と意気込みを感じ、寒さも忘れるようでした。

療養と一般企業との中間的な存在として

新しいエンジュは、まず、住宅や作業場、商業施設などが混在する場所に立地しており、そこで働く人たちが、いろいろな環境を経験し社会に溶け込んでいく姿が容易に描けます。中心機能の厨房以外にも多目的室などの機能があり、これらの機能が地域との接点としての役割を果たしていくことも、理想とされる姿だと思います。

また、弁当づくりの施設といっても、世の中にはさまざまな環境があります。療養目的の場と社会一般の企業との中間的な存在としてのエンジュの在り方を模索する過程にあると感じました。

「つながり」と「しきり」

設計士として施主の思いを形にすることが一番にありますが、私なりに、働きやすさ、居心地のよさを感じてもらえるような空間づくりを意識しさまざまな提案をさせていただきました。

第2回

エンジュは、やどかりの里が運営する障害のある人の働く場です。地域の高齢者やさまざまな人たちにお弁当を作ってお届けしています。見沼区中川からお隣の南中野に新たに建物を建設し、7月2日から新しい建物で仕事を始めています。今回は新エンジュの設計に携わった都祭俊一郎さんにエンジュに込めた思いを綴っていただきました。

建物内部は、福祉施設として必要とされる居住性とコストとのバランスで成り立っています。業務を止めることが難しい厨房は丈夫で長持ちする材料を使い、その他の部分では安価で一般的な材料を使いつつ、事務的な雰囲気にならないことに気を使いました。各部屋の機能を果たすための「しきり」と互いの息遣いが感じられる「つながり」とのバランスを意識した空間になっています。

街の中の障害者施設として

障害を持つ人々が社会復帰する橋渡しをするのがエンジュの役割であり、その意味でこの建物は、社会の模擬体験の場となるでしょう。そして、2階の多目的室は地域の人たちが集うことも仮定されています。この部屋には高さの違う窓を配置しましたが、そのことにより風が通りやすい工夫がしてあります。光が入るといった機能性だけでなく、空を掴めるような心地よさも味わっていただけたと思います。ぜひ足を運んでもらえたらと願っています。

これから

エンジュの人たちはさまざまな個性があり、施設の雰囲気は笑いにあふれています。また、地域社会の一員として近隣とのつながりを大事にしています。エンジュの皆さん・設計者・施工者、さまざまな人の手を経てエンジュは完成します。その建物を今度はエンジュで働く人たちが引継いでいきます。その様子から私自身も学び、さらなる社会貢献につながっていきます。

設計という業務は終わりますが、物語は続きます。

平成 24 年 6 月

作品を通じて いきいきと

エンジュ弁当利用者へ絵手紙を届け続ける

大塚幸子さん

(絵手紙クラブ「プライム」)



エンジュさんとの出会い

まだ大宮市だった頃、自分にも何かできないかな、と、ボランティア情報誌に載せたところエンジュさんから連絡があり、お付き合いが始まりました。

もう10年以上前になるでしょうか、一度、エンジュさんで仕事をされている方(障害のある方)数人が、職員さんと来られたことがありました。始めは緊張している様子でしたが、一緒に絵手紙を描くうちに「これはヘタウマがいいんだ」「ぼくらもイケルじゃん」などと会話がはずみ、楽しい時を過ごしました。

エンジュさんでは、お弁当利用者さんの誕生日に絵手紙をお届けしています。お届けする絵手紙はクラ

ブのお仲間と描いています。利用者さんからうれしいお返事が届くこともあります。絵手紙を通じて元気になっていただけたなら幸いです

私の趣味は絵手紙と陶芸教室

心の元気が体も元気してくれると思いますが、昨年の震災、原発事故、社会情勢、その他諸々のストレスを受けている今の世の中、いつ精神疾患に罹るかわからない。他人事ではないです。

心も体も元気にするために、何か自分にあった楽しい趣味を持つことも必要なのではないのでしょうか。

生きるということ

幼い頃、がんで両親を亡くしたこ

ともあり、生命について考えています。食品に含まれる発がん性物質や食品添加物など、子どもが生まれ、一層関心を持ち今に至っています。一時エンジュさんへの絵手紙をお休みしていた頃がありました。実は、アメリカでピザの修行をし、秩父で休日に無添加のピザとパスタのお店を開いていたのですが、無添加のためコストが高く商売にはならず2年で閉店(笑)。

エンジュさんのお弁当は、防腐剤の添加はなく、吟味された食材で、栄養士さんの指導のもとカロリー計算され、調理されたものを当日にお届けとのこと、安心、安全なお弁当に感動ですね。食は健康で生きるための原点。いずれ野菜はエンジュさんで作りませんか。無添加のハムやベーコンも、無理かなあ、私も協力しますよ！(笑)

エンジュ弁当はいかがですか。昼食 1食 550円

- *月～金のうちご希望の曜日にお届けします。
- *管理栄養士が献立をたて、栄養バランスのとれた弁当です。
- *おかゆ、刻み食などに対応致します。
- *食生活が気になる方、会社での昼食にもぜひお役立て下さい。

冬瓜のうす葛煮

冬瓜は身体を冷やし、熱を冷ます効果があるため、夏にぴったりの食材です。また、豊富なカリウムにより塩分も排出します。

ブロッコリーの衣揚げ

3房でなんと1日に必要なビタミンCの量の1/2を摂ることができます。

きゅうりとわかめの酢の物
酢は食欲増進や疲労回復に効果的！

お赤飯

小豆の赤色成分には疲れ目予防・老化・がん予防・血液サラサラ効果があります。また、もち米と合わせることでバランスがぐんとUP！

カレイのみょうがみそ焼

さっぱりした淡白な魚にみょうがの香りがアクセント。

【お問合せ】エンジュ 南中野 286 の1 電話 686-7875 Fax686-7985

印刷機材の総合商社

埼玉クスタオフ機材

本社／埼玉県さいたま市緑区三室1194-4
電話 (048) 873-5325

東京支店／東京都文京区白山1丁目21-14
電話 (03) 5840-7825

<http://www.saitamakusuda.co.jp>

労働保険・社会保険の手続き、ご相談は

浅沼社会保険労務士事務所

社会保険労務士 浅沼 智

〒353-0001 志木市上宗岡4-26-15
電話 048-487-6161 FAX 048-487-6168
E-mail: skiki-asanuma@sand.ocn.ne.jp

献血にご協力ください

日時 2012年10月18日 10時～12時 14時～16時

場所 ヨークマート大宮南中野店頭

主催 大宮見沼ライオンズクラブ



施設建設へご支援・ご寄附のお願い

やどかりの里は、今年度「やどかりの里援護寮」の居室増室のための改修と「食事サービスセンターエンジンジュ」の移転・新築事業に取り組んでいます。現在、建設費捻出のために広く寄附の呼びかけを行っています。ご支援についてご検討いただけましたら幸いです。

1口 3,000円・5,000円・10,000円（複数口大歓迎です）

郵便振替 00160-5-129879

加入者名：公益社団法人やどかりの里

ご協力いただける個人の方、事業所を広く募っております。

（お問合わせ）やどかりの里法人事務局 電話 048-686-0494 FAX 048-686-9812

やどかりの里援護寮は

精神障害のある人たちの1人暮らしへの準備を支えています。長期入院を余儀なくされてきた人や親元から離れて1人暮らしを始めようという人、また、休息など一時的に利用することもできます。こうした場はさいたま市内で1か所（やどかりの里援護寮）しかなく、居室が足りない状況です。

エンジュは

精神障害のある人たちが働く福祉施設です。仕事内容はお年寄りや身体の不自由な人などへの弁当宅配サービスで、さいたま市在宅高齢者等宅配食事サービス事業も受託しています。エンジュを新築し、障害のある人たちの働く場を広げていくこととともに、もっと多くの人たちの食を支えていきたいと計画しています。（2012年7月竣工しました）

バザー物品大募集！

お世話になっております。今年も、やどかりの里・大バザーにご協力お願い申し上げます。

□ 集める期間

8月27日(月)～9月30日(火)

□ 集める場所

やどかりの里会館内

(持参または送り主負担の宅配便をお願いします)

(〒337-0043 さいたま市見沼区中川 562)

Tel.048-686-0494)

□ 集めるもの

- ・大人服、子ども服、ベビー用品、おもちゃ(新品、美品)
- ・生活小物、食器、雑貨(新品、美品)
- ・台所用品、タオル、洗剤、石鹸、毛布、シーツなど(新品)
- ・食品(缶詰・調味料・油等、賞味期限前の未開封で常温保管できるもの)
- ・カンパも大歓迎！



□ 物品提供に関するお問い合わせ Tel.048-795-4720 (月～金 9.00-18.00 大宮区障害者生活支援センターやどかり)

10.07 BIG BAZAAR

10.00-15.00 中川自治会ふれあい広場

主催：公益社団法人やどかりの里

ボランティアさん大募集！

□ ボランティアの内容

バザー当日の運営に関わるボランティアです。9.00-16.00 くらいで、衣類や雑貨などの売り場の他、模擬店やイベント、会場設営や警備などをお願いします。

ボランティア説明会：9月1日(土) 13.00～14.00 会場：やどかりの里会館(さいたま市見沼区中川 562) で説明会を行います。

申し込み先：Tel. 048-680-1891 (月～土 9.00-18.00 やどかり情報館) ボランティア登録期間：9月1日(土)～9月20日(木)



□ ボランティアに関するお問い合わせ Tel.048-680-1891 (月～金 9.00-18.00 やどかり情報館)

大宮見沼 よみさんぽ

作者紹介

表紙絵 大塚幸子さん 秩父出身、理容師の資格を得て与野（現中央区）にてヘアサロン開業（結婚を機に閉業）。子育てが一段落し陶芸、絵手紙と出会う。1992年より陶芸倶楽部「プライム」開設、2009年より絵手紙倶楽部開催。著書「絵手紙 グーまあひのひとりごと（人生編）」

題字 イラスト 宗野文さん（1975年生まれ）学生時代から書道が大好きで、子育て中の今我が子とともに習字に再挑戦中。やどかりの里の作業所「すてあーず」所長。見沼区南中丸在住。

大宮見沼よみさんぽ 第2号

発行 2012年7月（夏号）

編集 「大宮見沼よみさんぽ」編集委員会

〒337-0026 さいたま市見沼区染谷1177-4

Tel 048-680-1891

Fax 048-680-1894

E-Mail johokan@yadokarinosato.org

<http://www.yadokarinosato.org/>

発行 公益社団法人やどかりの里

理事長 土橋敏孝

印刷所 やどかり印刷

定価 100円

地域との協働で事業を創造 コミュニティファームプロジェクト

収穫したてのじゃがいも

250円/kg



さいたま市見沼区中川562 Tel.048-686-0494 公益社団法人

やどかりの里